4-9 シリア

1. サマリー

1. エネルギー事情

(1)一次エネルギー供給量(2010 年)：22.00 百万 TOE(日本の 0.05 倍)

(2)一人当たりの一次エネルギー供給量(2010 年)：石油換算 1.06TOE(日本の 0.29 倍)

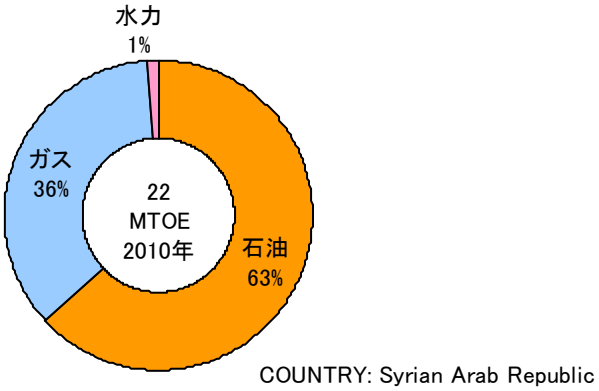
(3)エネルギー自給率(2010 年)：127%(純輸出国)

(4)エネルギー起源 CO_2 排出量(2010 年)：57.76 百万 CO_2 換算 ton（同 5.1%）

(5)一人当たりエネルギー起源 CO_2 排出量(2010 年)：2.82CO_2 換算 ton(同 31.4%)

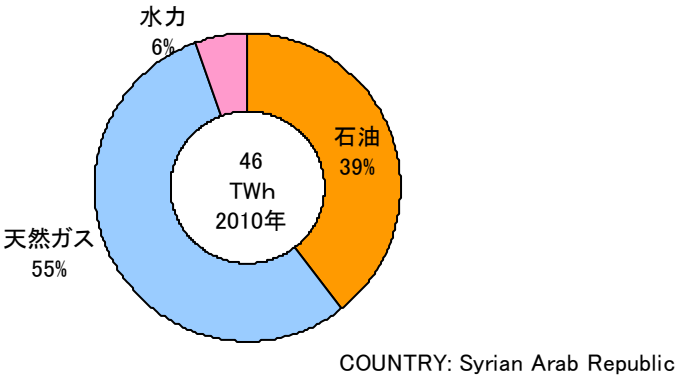
(6)エネルギー源別可採年数(2011 年末)：原油 20.6 年、天然ガス 34.3 年

一次エネルギー供給構成（2010 年）



（出所）IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

発電電力量構成（2010 年）



（出所）IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

(1)エネルギー政策担当機関

- 石油に関しては、石油鉱物省（Ministry of Petroleum and Minerals Resources）の元、石油産業上流・下流部門統括のため、2006 年 8 月に公立石油機構（Public Establishment for Petroleum：PEP）と公立石油精製・石油製品流通機構（Public Establishment for Oil Refining and Distribution of Petroleum Products：PEORDPP）が設立された。
- 水力は、灌漑省（Ministry of Irrigation）が担当しており、Euphrates 川等にダムを建設している。これらのダム式発電所は、Euphrates 川流域を灌漑省の下部組織であるユーフラテス・ダム公社（General Establishment for the Euphrates Dam：GEED）が、それ以外を灌漑省が直轄で管理している。
- 原子力については、1998 年にシリア原子力委員会（Syria Atomic Energy Comission：SAEC）がロシアとの間で原子力平和利用協定を結び、原子力研究センター（Atomic Energy Research Center：AERC）を設立した。
- 電力と再生可能エネルギーは電力省（Ministry of Electricity：MOE）が管轄する。

(2)基本政策

- 原油生産量は漸減しており、外資を導入して探鉱・開発を推進する方針。

(3)最近の動向

- 「アラブの春」の影響を受け、国内の政権と反政府勢力の対立が激化し、事実上「内戦」状態となり、2011 年 8 月、バニアス（Banias）港で石油荷役妨害行為が頻発した。
- EU は対シリア制裁の一環として、シリアからの石油・石油関連製品の輸入を 2011 年 9 月に禁止した。一方、シリア国内では制裁の影響で国内石油製品が不足している。
- 2011 年 6 月に、シリア政府は投資環境の改善と競争力強化を目指し、国家競争力監視局（National Competitiveness Observatory）を設立するための法令を発行した。
- シリア国営石油（Syrian Petroleum Company：SPC）は、シリア中心部の Daw 盆地の Qara 地区の Qara-1 開発を行ない、深度 3,113m でガス 40 万㎥/D とコンデンセート 560b/d を発見した。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 地理的な関係から経済的には特に深い関係にはなく、2011 年度においてもシリアからの原油輸入実績はないが、政治・外交的には日本にとっても重要な国といえる。
- 「アラブの春」をめぐる一連の混乱により、2012 年 5 月末に日本外務省は在京シリア大使に国外退去を求めた。この報復としてシリア政府は 6 月 5 日、鈴木敏郎駐シリア日本大使の受入れを拒否した。

2. 主要エネルギー指標

（2010 年）

(1)	一次エネルギー供給量		22.0 百万 TOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給		1.06 TOE/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給		0.59 TOE/千$
(4)	エネルギー自給率		127 %
(5)	エネルギー起源 CO_2 排出量		57.76 百万 CO_2 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO_2 排出量		2.82 CO_2 換算 ton/人
(7)	エネルギー源別構成率	石炭	0 %
		石油	63 %
		ガス	36 %
		原子力	0 %
		水力	1 %
		再生可能ｴﾈﾙｷﾞｰ等	0 %
(8)	エネルギーの輸入依存度		0 %
(9)	石油の輸入依存度		0 %
(10)	輸入原油の中東依存度		― %
(11)	原油輸入先	第 1 位	―
		第 2 位	―
		第 3 位	―

（出所）(1)～(4) および (7)～(9) は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition Edition 、(5)～(6) は IEA, CO2 Emissions from Fuel Combustion 2012, Edition